

2017年2月5日

福音書からのメッセージ

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

(マタイによる福音書 5章 16節)

あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。今日はこのイエス様の言葉について思いを深めていきたいと思えます。

この言葉は、山上の説教の最初の方で語られました。「幸いである」と集まってきた群衆に向かって語られた直後です。

イエス様が「幸いである」と語った相手、それは、「心の貧しい人々」、「悲しむ人々」、「柔和な人々」、「義に飢え渴く人々」、「憐れみ深い人々」、「心の清い人々」、「平和を実現する人々」、そして「義のために迫害される人々」でした。そのような人たちは、馬鹿にされ、のけ者にされ、神さまの祝福などあなたたちには与えられないと言われていた人たちでした。しかしその人たちに向かって、イエス様は「あなたたちこそ、幸いなのだ」と宣言されたのです。

そう言われた彼らは、どう思ったでしょうか。ボロボロの身なりで、必死の思いでイエス様の元にやってきた彼ら。どう生きていいのか、何を信じていいのか分からないまま、足を引きずりながら、何度も倒れながら、何かを求めてイエス様のところに来たのです。

彼らは何よりもまず、自分のために歩いて来ました。暗闇に包まれたこの状況を何とかしたい。その彼らに、「幸いである」と言われたイエス様。彼らには、その言葉だけで十分だったのかもしれませんが。その言葉を聞いて、彼らは受け入れられ、このまま生きていいのだと思ったことでしょう。



しかしイエス様の言葉はそこで終わりませんでした。あなたがたは地の塩である、あなたがたは世の光であると言われます。よく見ると、あなたがたは地の塩になれ、ではありません。世の光になれたらいいね、ということでもないのです。あなたがたはすでに、地の塩であり世の光な

のだと宣言されているのです。

地の塩、それは何でしょう。自分自身が目立つのではなく、周りの人のために生きていく。自分というものが埋もれてしまおうとも、ただただ隣にいる人のために生きていく。そのような生き方です。

世の光、それは何でしょう。自分で光り輝くことなどできません。しかしイエス様の光をまとい、暗闇にいる人を照らすこと、それが世の光の働きです。

わたしたちもまた「幸いである」と宣言された一人ひとりです。そして地の塩、世の光として生きることを求められています。決して特別な能力がなくてもいい。わたしたちには、塩としての賜物が、光を輝かせる賜物が与えられています。それを決して隠してしまわずに、隣にいる人のために用いましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>